

名称 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, Northern part of Okinawa Island, and Iriomote Island

区分 自然遺産

登録年 2021年

登録基準 (x)

地域 奄美大島 (鹿児島県)

徳之島 (鹿児島県)

沖縄島北部 (沖縄県)

西表島 (沖縄県)

所在地 ■鹿児島県
(奄美大島)

奄美市

大和村

宇検村

瀬戸内町

(徳之島)

徳之島町

天城町

伊仙町

■沖縄県

(沖縄島北部)

国頭村

大宜味村

東村

(西表島)

竹富町

登録の理由 (x) IUCN のレッドリスト (2015) の絶滅危惧種 86 種 (そのうち 70 種は固有種) を含む陸生動植物の生息・生育地である。また、その地史を反映し遺存固有種と新固有種の多様な事例が見られ、世界的にみても生物多様性の生息域内保全にとって極めて重要な自然の生息・生育地を包含した地域となっている。

特徴 日本の自然遺産としては小笠原諸島以来、10年ぶりで5番目に登録された。アマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコなど独自に進化した多様な生物が見られる。

奄美大島

島の中央部・南部では、湯湾岳(694m)や油井岳(484m)などの山塊から海域まで、亜熱帯照葉樹林が連続しており、これらの森林では、アマミノクロウサギ、ケナガネズミ、ルリカケスなどの遺存固有^{*}種のほか、アマミトゲネズミ、オットングエルなど遺存かつ新固有種の生息地となっている。

※依存固有…かつて近隣地域にも分布していた系統群が絶滅してゆく中、新たな捕食者や競争相手が容易に越えることのできない海峡で隔てられた島嶼にだけその要素が残っている状態。

奄美大島の中で最も標高が高い湯湾岳は、日射量が限られた空中湿度が高い雲霧帯^{*}になっており、コゴメキノエランなどの希少な着生植物^{*}が樹上に生育し、林床にはシダ植物が繁茂している。

※雲霧帯…熱帯や亜熱帯に位置する島々において、島の斜面に沿って上昇気流が発生し、標高の高い場所で発生する。この雲霧の発生が多い地域は、雲霧帯といわれる。

※着生植物…土壌以外の場所、岩、樹木などに生える植物のこと。

徳之島



国土地理院 地理院タイルに島名等を追記

島の北部の天城岳(533m)を中心とするエリアと、中央部の井之川岳(645m)から犬田布岳(417m)にかけてのエリアの2つの構成要素からなる。スダジイ林を中心とする亜熱帯照葉樹林が広がり、特徴的な板根が発達するオキナウラジロガシの群落が発達する箇所もある。これらの森林では、アマミノクロウサギやケナガネズミなどの遺存固有種のほか、オピトカゲモドキやトクノシマトゲネズミなど、新固有種も数多く生息している。また、トクノシマテンナンショウやハツシマカンアオイなど固有かつ希少な植物の生育地でもある。

※板根（ばんこん）

樹木の地表近くからの側根の上部が、平板状に著しく偏心肥大し、樹木の支持や通気の働きをする根のこと。熱帯雨林の高木やマングローブ植物に多く、例としてハウガンヒルギ、サキシマスオウノキ、ラワンなどが挙げられる。

沖縄島北部(やんばる)

与那覇岳(503m)や西銘岳(420m)が連なる山塊では、スダジイ林を中心に、亜熱帯照葉樹林が広がっており、これらの森林には、オキナワトゲネズミ、オキナワイシカワガエル、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナゴコガネ、オキナワセッコクなど、沖縄島北部にしかない希少かつ固有な動植物が数多く生息している。また、渓流域^{*}には、渓流植生^{**}が良く発達している。

※渓流域

沖縄島北部山地の稜線部には雲霧林が発達し、その稜線部から流れる渓流河川両岸には渓流植生が発達する渓流環境があり、オキナワイシカワガエル等の両生類のほか、日本国内近縁種とは遺伝的に分化しているフナ、ドジョウなどの陸水生魚類、サワガニ類、テナガエビ類等甲殻類、渓流性トンボ類などの水生昆虫類等、多様で希少な動植物が多数生息・生育している。

※渓流植生

急峻な渓流が多い沖縄県北部の流域には、周期的な冠水と減水を繰り返す特殊な水環境に適応し、その形態を変化させた植物が生育している。

西表島

島の中央部に古見岳(469m)や御座岳(420m)などの山々が連なり、原生状態に近い亜熱帯照葉樹林が広がっている。また、浦内川や仲良川など、山から海へ連続した流域を含んでいることが特徴であり、河川、マングローブ林、低湿地帯、干潟などの多様な生態系を有する。中琉球の他の3地域よりも新しい時代に大陸と分離したことから、大陸に近縁種が存在するイリオモテヤマネコ、ヤエヤマセマルハコガメ、コガタハナサキガエルなどの新固有種が多く生息している。

以上各島の特徴は、環境省沖縄奄美自然環境事務所リーフレット「世界自然遺産 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」(<https://kyushu.env.go.jp/okinawa/amami-okinawa/awareness/pdf/a-6-j.pdf>)を参考とさせていただきます。

備考1 (ix) かつて大陸の一部として共通の陸生生物が生息していたが、島々が分離・結合を繰り返し、小島嶼群として成立する過程において、多くの進化系統に種分化が生じた。このように大陸島における独特な生物進化の過程を明白に表す生態系の顕著な見本。

世界自然遺産登録に向けた取組時においては、「評価基準 (x) 生物多様性 生物多様性保全上重要な地域」に加えて、上記の「評価基準 (ix) 生態系 独特な生物進化の過程を明白に表す生態系の顕著な見本」も候補として挙げられていた。

出典：日本の世界自然遺産について ～奄美・琉球の遺産登録に向けた取組～

<https://www.mlit.go.jp/common/001096775.pdf>

備考2 自然遺産の日本からの新規登録は「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が最後になる公算が大きいかもいわれている。2022年現在、自然遺産の候補としてリスト化されている地域はない。過去に候補として検討された地域はあるが、景観や地形の特異性を比較すると海外の事例に及ばず、独自性を打ち出しにくいとして見送られている。

備考3 沖縄に生息する特別天然記念物には、イリオモテヤマネコ、ノグチゲラなどがある

参考リンク https://www.pref.okinawa.jp/okinawa_kankyo/shizen_hogo/hozen_chiiki/shishin/okinawatou_hozen_shishin/okinawatou_table/tbl_riku_1-6-1.htm

環境省 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

<http://kyushu.env.go.jp/okinawa/amami-okinawa/index.html>

世界自然遺産 奄美・沖縄

<https://amamiokinawa.jp/>